

自閉性障害児における疑問詞質問の般化の検討

The study of generalization about teaching of responsive reaction to
“wh”-question in a child of autism.

○田渕星子・丹治敬之・野呂文行

(島根県立益田養護学校・筑波大学障害学生支援室・筑波大学)

Seiko Tabuchi, Takayuki Tanji, Fumiyuki Noro

(Masuda Special Needs school) (Office for students for disabilities in University of Tsukuba)
(University of Tsukuba)

Key words: 疑問詞質問 マトリックス訓練 自閉性障害児

I. 問題と目的

自閉性障害児に対する応答反応獲得の指導や般化において、マトリックス訓練の有効性が示唆されている(佐藤ら, 2005)。

本研究では、自閉性障害児1名に対してマトリックス訓練を実施し、既知と未知の刺激割合による般化への影響を検討することを目的とした。

II. 方法

対象児: 自閉性障害男児1名(CA6:7)を対象とした。指導開始時に行った田中ビネー知能検査Vでは、MA3:6(IQ53)であった。

セッティング: 週に1回1時間行われる、大学教育相談のセッションの1課題として行った。

刺激: 指導及び般化テストに使用した刺激を表1に示した。使用する見本刺激は、「だれ」「どこ」「なに」に対応する要素を組み合わせた写真刺激(A先生がエレベータでりんごを食べる)とした。質問は訓練、般化ともに、「食べてるのだれ?」のように「動詞+疑問詞」で行った。

	A先生	B先生	C先生	
りんご	①	②	⑤	エレベータ
ばなな	③	④	⑥	階段
本	⑦	⑧	⑨	トイレ

①～④訓練刺激
⑤～⑨般化刺激
⑤⑥既知刺激2/3, ⑦⑧既知刺激1/3
⑨既知刺激なし

表1 指導及び般化テストに使用した刺激

手続き:

ベースライン(BL): 写真刺激に対して音声による疑問詞応答を行った。

箱分類訓練: 各疑問詞の文字カードが貼られた箱を用意し、要素写真刺激を対応する箱に入れる形で疑問詞応答を行った。

ホワイトボード訓練: 見本刺激を提示後、ホワイトボードに「だれ」「どこ」「なに」の順番に要素写真刺激を貼り付け、読み上げを行った。その後音声での質問に対し、要素写真刺激を選択する形で疑問詞応答を行った。ホワイトボードに文字Prをつけて実施した後、文字Prを撤去して実施した。

要素写真による応答: ホワイトボードを撤去し、音声による質問に対し、要素写真刺激を選択する形で疑問詞応答を行った。

BL: 要素写真刺激を撤去し、写真刺激に対して音声

による疑問詞応答を行った。

般化写真刺激: 般化写真刺激⑤～⑨に対して、音声による疑問詞応答を行った。

III. 結果

本研究の結果を図1に示した。

BLでは主に物の名前を答える様子が見られたため、「だれ」が人の名前、「どこ」が場所、「なに」が物を示す刺激クラスを形成するため箱分類訓練を行った。その後、ホワイトボード訓練によって「だれ」「どこ」「なに」の音声系列を形成し、正反応率が安定した。

般化写真刺激では既知刺激が多い刺激(⑤⑥(既知刺激2/3))では正反応率が高く、既知刺激が少ない刺激(⑦⑧(既知刺激1/3)⑨(既知刺激なし))では正反応率が低くなる傾向がみられた。

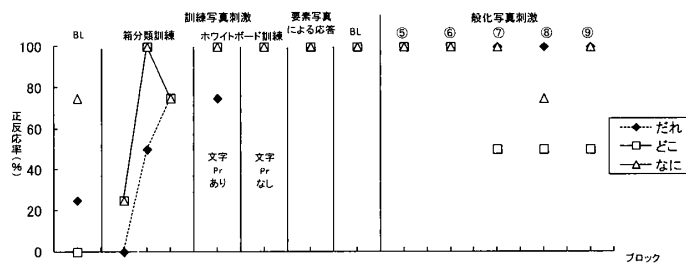


図1 疑問詞応答の結果

IV. 考察

本研究の結果から、マトリックス訓練は、疑問詞質問獲得の指導において有効であった。これは先行研究を支持する結果であった。

また、般化刺激に含まれる刺激について既知刺激の割合で、般化に影響を及ぼすかを検討したところ、訓練で用いた既知刺激の割合が多い方が、学習が促進される可能性が示唆された。

しかし本研究では、般化への影響が既知刺激の割合そのものであるか、疑問詞によるものかを特定することはできなかった。今後、多事例で実施する等、検討が必要である。

V. 引用文献

佐藤克敏他(2005) 自閉症の子どもにおける応答言語に関する般化要因の検討—「だれ」、「なに」に関する応答言語の指導—. 国立特殊教育総合研究所紀要, 32, 19-27.